

NO! リニア

No. 173

2024年5月18日

JR東海労働組合

JR東海労HP
にアクセス



岐阜県でも水位低下・水涸れ! これ以上の被害を出してはいけない

岐阜県瑞浪市大湫町（おおくてちょう）で行われているリニアの日吉トンネル工事現場の付近で、14ヶ所のため池や井戸の水位が低下したことが5月15日の報道で明らかにされました。一部では水が枯れた場所もあると報道され、今年の2月中旬から、工事現場から毎秒20リットルの湧水が確認されたとしています。

丹羽社長は16日の記者会見で、「他に工事をしていないことから、リニア工事が影響している可能性が高い」と因果関係を否定せず、「工事を一時中断してボーリング調査を行う」と述べました。その一方では、静岡工区について「今回はトンネル工事の近くで起こった事象。静岡工区については、工事箇所から河川延長で約100km離れた大井川中流域に与える影響や対策を議論していて、ケースが異なる」と見解を示しました。

リニア工事を巡っては、山梨県の実験線建設から水涸れが相次ぎ問題となっています。リニアは線路の80%以上はトンネルです。今後、工事が進むにつれ、水涸れの問題は更に拡大することは火を見るより明らかです。水涸れに対する補償は30年、それ以降は保証は無く、自腹で何らかの対策を取るしか方法はありません。大量に水を使う農業などにとっては死活問題です。子の代までは生活できるとしても、孫の代までは分かりません。

ところで、丹羽社長は「大井川とはケースが異なる」と述べましたが、「大井川が枯渇しても、工事との因果関係はない」と受け止めてもおかしくない発言です。南アルプストンネル工事では、水位が300m以上低下することが明らかにされています。そして、幅800m以上の破砕帯にある水の突発湧水対策は確立されていません。

命の水を守るためにも、リニア工事は直ちに止めるべきです。